

## 試聴会・訪問記掲載

### 河口無線ハイファイリティ試聴会報告(2015.12.5)

河口無線で開催されたフェーズメーションの試聴会に行ってきました。フェーズメーションのオールキャスト登場の試聴会でした。

#### <使用機材>

以下のようなラインアップで計画されていました。

管球プリアンプ：フェーズメーション CA-1000

管球モノラルパワーアンプ：フェーズメーション MA-1000



フォノイコライザーアンプ：フェーズメーション EA-1000

フォノイコライザーアンプ：フェーズメーション EA-500

フォノイコライザーアンプ：フェーズメーション EA-300

MC 型モノラルカートリッジ：フェーズメーション PP-MONO

MC カートリッジ：フェーズメーション PP-2000

MC 型カートリッジ：フェーズメーション PP-1000

MC 用昇圧トランス：フェーズメーション T-500

スピーカーシステム：アバロン・ダイヤモンド



#### <試聴の経過>

試聴は各機器の構成や特に音質との関係で3 躯体にしたことの理由などの説明を交えながら進められました。

最初に同じマスターからの CD とアナログの聴き比べがあり、くっきり系の CD に対し、PP-1000 と EA-300 の組み合わせによる、ソフトでありながらディテールまで聴かせるアナログのメリットを聴かせてくれました。

ついで軽めのジャズと女声ボーカルがかけられ、フォノステージでのバランス伝送のメリットの説明があり、次のような聴き比べがありました。

a) PP-1000→EA-300 アンバランス伝送

b) PP-1000→T-500 トランス→EA-300 バランス伝送

c) PP-1000→EA-500 (トランス内蔵) バランス伝送

a) →b)では音に深みが出て低音の量感が出ること、b) →c)ではさらにディテールが出て低音の分解能が向上することが聴き取れました。

機器構成はこのままで、マイクから最後のカットリングまで真空管の機器を使ったアナログとギターとボーカルのアナログがかけられ、真空管をつかった録音の質感やギターの音の立ち上がりの良さのデモがありました。

ここで非常に鮮度の良いジャズがかかり、カートリッジを PP-1000 から PP-2000 に替えて比較試聴が行われましたが、磁気回路の綿密な見直しによる効果をアピールされていました。確かに PP-1000 でも相当にグレードの高い音を聴かせるのですが、PP-2000 を一度聴いてしまうと元に戻れない感じです。

ここでカンターテドミノの初期盤をかけながら、フォノイコを EA-500 から真空管式の EA-1000 に替えて、Solid State と真空管式のフォノイコの比較が行われました。真空管式のフォノイコ独特の質感の良さが感じられましたが、EA-500 を好むユーザーや評論家もおられるということでした。

PP-2000 と EA-1000 のままで古い録音のお馴染みの take5 やショスタコービッチの 8 番がかけられ、鮮度の高い再生ぶりをアピールしたのち、モノラルカートリッジによるモノラルのアナログ盤の再生に移りました。

#### <まとめ>

バランス伝送、真空管の採用、磁気回路のノウハウの蓄積など、アナログに拘り続けた同社のスタンスをカートリッジとフォノイコの組み合わせにより、実際の音で確かめることができ大変参考になりました。貸出機があるとのことで機会を見てカートリッジ自宅のシステムで試してみたいと思っております。

以上